

**第1回 資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会
議事録**

I 開催日時等

日時 令和3年3月30日（火） 10:00～11:30

場所 福岡市市民福祉プラザ（ふくふくプラザ）503 研修室

II 次第

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会の進め方について

(2) 資料展「引揚港・博多」の現状の確認

(3) 展示資料、展示方法等についての意見交換

4 閉会

5 事務連絡

III 議事録

1 開会

- ・事務局挨拶
- ・配布資料確認

2 委員紹介

【事務局】

それでは、本検討委員会の委員につきまして、事務局からご紹介させていただきます。お手元にお配りしております、『資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会設置要綱』の裏面に記載の委員名簿をご覧ください。名簿の順に職名と氏名を読み上げさせていただきますので、委員の皆様から一言ずつご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。まず、福岡市総合図書館館長の青木委員でございます。

【青木委員】

福岡市総合図書館の青木でございます。図書館では引揚資料の収集はしておりませんが、保存をしております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。続きまして、福岡市博物館総館長の有馬委員でございます。

【有馬委員】

福岡市博物館総館長の有馬でございます。よろしくお願いいたします。博物館は福岡の歴史と民俗を中心にした展示を行っている施設でございますが、福岡の歴史において引揚げというのは大変重要な出来事であると思っております。今回の検討を機に、良い展示になればいいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。続きまして、「引揚げ港・博多を考える集い」世話人の上村委員でございます。

【上村委員】

おはようございます。上村といいます。私は10歳のときに旧満州、今の中国東北部から引き揚げてまいりました。実は、私の家族は博多港ではなく佐世保港から入港しました。両親が福岡出身で、私も6年前に福岡市内に転居した関係で不思議な縁があり、「引揚げ港・博多を考える集い」の世話人会に参加するようになりました。福岡市の引揚げ資料や常設展示について色々調べたところ、他都市の資料館と比べて引揚者が一番多く入港し、資料の提供が多数あるにも関わらず、資料の展示が十分でないという印象を持っています。北九州の平和資料館のように、何億というお金を使う必要はないとは思っていますが、何らかの形で福岡の空襲と引揚げを合体して平和資料館のようなものができればなと思っています。福岡市の総合図書館や博物館等を見て回ったところ、博物館には博多の歴史の中に資料として残されているが、それ以外ではこのふくふくプラザにしか資料がない。どうなっているのかなと思って出席しております。以上です。

【事務局】

ありがとうございます。つづきまして、九州大学韓国研究センター教授の永島委員でございます。

【永島委員】

おはようございます。九州大学の永島でございます。このような場にお呼びいただき光栄に思っております。若輩者ではございますがよろしくお願いいたします。早良区の在住で、今日もここに来る道すがら、室見川の横を通ってきましたが、川の側に引揚げ援護とも関係のある母子家庭寮がありまして、私が中学生のときに焼けてしまい、今は小田部の方に移ってしまっているのですが、福岡のそうした歴史とゆかりがある場所に住んでおります。研究内容としては日韓関係史を専門にしております。特に植民地時代の朝鮮半島を専門にしていることもあり、外地で活躍した知識人達の動きを追いかけています。そういう人達が、実は日本人世話会の幹部であり釜山と福岡を行き来していたということがあったり、研究にも引揚げ資料を活用させていただいていることもあり細かいことは部分的に知っているということも、この場に呼んでいただいたことの一つになっているのかもしれない。今後とも非力ではございますが何かのお役に立てればと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。続きまして、福岡市博物館学芸課課長の松村委員でございます。

【松村委員】

福岡市博物館学芸課長の松村でございます。よろしくお願ひ致します。先程お話に出ておりましたが、博物館では福岡の全体の歴史の中の一コマとして戦時期の展示をさせていただいております。私は専門が歴史ではなく民俗学ということで、先輩の方々からいろいろな伝承を聞かせていただく機会が多くあります。我々が話を聞きたいのは地域の伝統行事であるとか、催しなのですが、必ずある年代の方々とお話をしていると、戦時体験というものがお話に含まれており、どちらかというところをより強く話したいという方も多くいらっしゃいました。戦時の記憶というものについては、少々関心があります。今回は委員に専門家の方もいらっしゃいますので、私としては展示方法、展示技術というところを特に考えさせていただきたいなと思っております。よろしくお願ひします。

【事務局】

委員の皆様ありがとうございます。なお、本検討委員会の委員長については有馬委員にお願いさせていただきます。よろしくお願ひします。

3 議事

【事務局】

以上で委員の紹介を終わらせていただきまして、議事に入らせていただきます。次第に記載されているとおり、本日は議事が3つございます。

(1) 資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会の進め方について

【事務局】

まず議事「(1) 資料展「引揚港・博多」展示入替検討委員会の進め方について」、事務局から説明させていただきます。

資料1をご覧ください。資料に記載のとおり、本検討委員会の目的につきましては、「展示資料の入替えを行うにあたり、より市民にわかりやすく、史実を後世に伝えることができるよう、適正かつ効果的な入替えについて検討を行う」こととさせていただきます。

また、本委員会での検討の対象は2つございまして、①入替えを行う資料について、②資料の展示方法について、以上2点とさせていただきます。

今後の予定ですが、検討委員会は本日を含めまして全3回の開催を予定しておりまして、第2回を5月下旬ごろ、また第3回を7月頃に開催したいと考えております。

議事につきましては、第1回は次第のとおり3点でございますが、第2回目、第3回目につきましては、それぞれ検討の対象である入替えを行う資料案と展示方法案につきましてご意見を賜りたいと考えております。

(2) 資料展「引揚港・博多」の現状の確認

【事務局】

続きまして、議事「(2) 資料展「引揚港・博多」の現状の確認」についてでございます。資料2をご覧ください。現在、資料展「引揚港・博多」においては、第一章から第四章までの四章構成で、博多港に引き揚げて来られた方々などから寄贈いただいた貴重な資料を展示させていただいております。

展示方法は、現物の展示の他、レプリカの展示であったり、写真等を引き伸ばして制作したパネルの展示の3種類となっております。

第1章から第4章までの展示の内容は記載の通りでありまして、個別の説明は割愛させていただきます。

展示の総数につきましては、映像コーナーや援護局史などを含めまして、111点となっております。レイアウト等につきましては、お手元のリーフレットで確認いただければと思います。

続きまして、資料3をご覧ください。こちらは福岡市が保有する資料を一覧にしたものでございます。ⅠからⅢの時系列に分けて、資料の種類ごとに、保有点数、福岡市ホームページでの掲載点数、常設展示における展示点数をそれぞれ記載しております。

例えば、Ⅰ引揚前・海外における生活資料－Ⅰ金融関係－Ⅰ紙幣を見ますと、本市で保有する点数は12点あり、そのうち5点はホームページ上で公開しており、うち1点は常設展示においても展示していることを示しております。

なお、右端の備考欄の列には、詳細な資料の種類を記載しております。類似資料が多数あるものについては、類似資料多数と記載しております。特に、貨幣、保険証書、絵葉書、引揚者給付金などで、同一又もしくは類似する資料が多くなっておりますのでそういった記載をさせていただいております。

以上、資料2で展示資料一覧、資料3で福岡市が保有する資料一覧を記載しております。それでは、1階の常設展示の方に降りていただきまして、あらためてご確認いただきたいと思います。時間を区切らせていただいて、こちらのお部屋にお戻りいただければと思います。貴重品の管理は各自でお願いいたします。

(3) 展示資料、展示方法等についての意見交換

【事務局】

それでは、議事「(3) 展示資料、展示方法等についての意見交換」に入らせていただきます。なお、総務企画部長の藤田は公務の都合により席を外させていただきます。ここからの進行につきましては、有馬委員長にお願いしたいと思います。有馬委員長、よろしくお願い致します。

【有馬委員長】

それでは、私の方で進行をさせていただきます。議事「(3) 展示資料、展示方法等について意見交換」となっております。この委員会は、基本的には現行の展示の入替えをどういう風にやるか

ということが与えられた任務となっておりますので、このところが一番大事なポイントとなります。まずは皆様どうぞご自由に意見をいただいたて、それから方向を整理しながら議論を進めていこうかと思えます。どなたからでも結構ですので、お願いします。

【委員】

あのスペースでの展示はあんなものかなという感じはします。ただ、福岡市には資料が2,600点あるということですね。世話人会で色々お話を聞いていると、まず今日、入替の検討委員会が始まったことは嬉しく思っていますが、何年も前から要望しているにも関わらず、資料の入替えがずっと延び延びになっています。理由はよく分かりませんが、少なくとも、2年に1回くらい資料の入替えをした方がいいと思っています。それから、他都市の引揚資料館には学芸員がおられます。引揚げだけに関する学芸員でなくてもいいと思いますが、一人なり二人なり関わって頂きたいと思えます。展示のスペースは1ホールくらいの広さの中でできないのかなと思っています。展示の目録を見直しましたが、どれをどう展示するか考えるというのは容易ではないなという印象を受けました。今ある展示を全部一回で入れ替えるとか、半分とか三分の一ずつ何年間に分けて入れ替えるということを検討していただければと思えます。

【有馬委員長】

ありがとうございました。後で議論を整理して絞り込もうと思えます。とりあえず、皆様ご自由に意見をいただきたいと思えます。

【委員】

確かに非常にスペースが狭いということがございまして、効果的な展示をするのが大変であることは、今改めて拝見して感じています。

このあと考えていくべき点として、1つは資料保存の問題があらうかと思えます。当然見ていただく資料は本物であることがベストではありますが、ではこういった展示をする目的として、例えば引揚者の方々が存命のうちに自分たちの思いを伝えることが最優先されるべきなのか、それとも将来的にこうした歴史的な事実が受け継がれていくことがベストなのかということを考えて時に、資料の保存と公開のバランス、どういう風に展示をしていくかは非常に重要な問題にならうかと思えます。いくつか実物の資料が非常に赤く変色しているのをお気付きになるかと思えます。紙物資料の、特に終戦直後の紙の質は非常に悪い。酸性紙ですので、そのまま置いておくと崩壊の危険性が非常に高い。そういった点をふまえて、今後どのように展示をすべきか慎重に考えるべきであるということが、まずは今見てきたところの考えです。

【有馬委員長】

ありがとうございます。委員、お願いします。

【委員】

それほど付け加えることはありませんが、スペースの問題というのは皆様がおっしゃられてい

る通りだと思いますし、逆に狭いところにあれだけ盛り込んでいるということは色々ご苦勞もあるのかなと思います。

私の専門の視点から申しますと、福岡市が持っている資料の明らかな特徴として、朝鮮半島を中心とした引揚げの物語というものがあるのではないかと思いますし、表に出すことにはかなり慎重な議論や考慮が必要であるとは思いますが、二日市の保養所の問題等もあります。たまたま、先週他都市の引揚資料館を見てまいりましたが、福岡市の場合は市政だよりで「引揚関係の資料を寄贈してください」という記事を出していますし、市民の意識も高いといえますか、物も資料価値が高いものがたくさんあるということを改めて確認させていただきました。

【委員】

私は行政職でございまして、あまり引揚関連に詳しくないですが、先ほど現状を見させていただいて、感想と意見を申し上げますと、筋立てして第1章から第4章まで作られている。この辺はよく整理されているのかなという気はしました。キャラクターも作ってあって、これをはじめ展示されたときに、それなりに誰かが監修しながら作っていったのではないかと思います。展示の入れ替えをするにあたっては、外部の方でもいいと思いますが、ある程度詳しい方で効果的な展示ができる、ストーリー立てができるような方が進めていかないといけないのではないかと思います。

【有馬委員長】

ありがとうございます。基本的に大事な事柄が只今の短い意見交換の中で出てしまったような感じがします。この会議というのは、背後に膨大な予算を抱えているわけでもなければ大きな権限があるわけでもないで、スペースの問題は議論してもいいと思いますが、やるべきことは現行の展示をいかに効果的にリニューアルしていくか考えることかなと思っております。

大きな観点から言うと、ご覧になった方が、特に引揚体験をお持ちの方がご覧になって「あんまり大事にされてないな」という感想をお持ちになることは一番避けなければいけないと思います。効果的かというと学術的な問題ももちろんありますけれど、やはり一番の基本は特に引揚体験をお持ちの方が、来館者は自分たちの経験を見てくれている、大事にされているという感覚をどこかで持っていていただくことが当面目指すべき一番大事なことかなと思います。

そのためには展示の構成や展示資料の選択も含めて考えていかなければならないことがいくつかあるだろうと思います。これは大原則ですが、正しいことをやっているから展示技術はいらないかというところではありません。きちんとした展示技術、展示の技法、あるいは展示の理念というものがないとやっぱりいい展示にならないです。正しいことをやればいるほど、展示の専門家の目を入れることを考えるべきだと思います。

それから資料保存の問題がありました。これも長い将来を考えると大事なことで、今現在は図書館が所蔵管理されていますので、当面、物理的な問題というのは直ちに起こらないわけですが、紙の保存の問題は実はものすごく厄介で、簡単に言うと現在の科学では対策はなく、劣化の進行に任せるしかないということになります。だとしても、しかるべき措置は取られるべきであり、特にここにしかないものがいくつか含まれているわけです。非常に大きな問題であると思います。

それからストーリーについて言うと、確かに委員がおっしゃったように、朝鮮半島からの引揚者が多いというのは博多港の一つの特徴、特色であり、残っている資料もその系統の資料が多く、重要なものが多いというのもその通りです。もう一つ、博多港の場合はこちらから故国に帰っていく送り出し引揚げが多かったということも非常に大きな特徴だと思います。

ちなみに申し上げますと、実は聖福寮や二日市保養所に繋がる活動をやったのがどういう人達であったかという問題は委員が初めて明らかにされました。特に日本人世話人会をどういう人達が担ってきたのかということについて、きちんと追跡されたのは委員の研究が最初です。そういうこともありますので、一つの章にするのかどうかは別にして、博多港の特徴、特色として、きちんと取り上げていっていいことかなと思いました。

スペースのことも課題として認識していかなければいけない、事務局に認識していただかなければならないことだと思いますが、今すぐどこか場所を探すというのは難しいと思いますので、とりあえずそれを大事な課題として認識しながら、現行の展示、何が問題なのか、どういう風にしていけばいいのかということについて話を絞っていきたいと思います。

後で皆様のご意見を伺いますけれども、最初に私のほうから一つだけ意見を言わせていただきます。ここで一番良くないことは、ふくふくプラザに入ってきて、引揚げの展示があるということが分からないことです。仮に予備知識があつて来て、それを見たいと思って来たとしても、玄関に入ってどこへ行ったらいいか分からない。これは早急に改善すべきことであり、館内の案内のサインはちゃんと出さないといけないと思いました。簡単に解決できることだと思いますので、まず入口のところからきちんとやるということを是非お願いしたいと思います。

他に何かご意見はありますか。

【委員】

今の有馬委員長のお話は確かにその通りでして、場所的な問題で建物に入っても入口がわからない。こういった施設はより広く皆様に知ってもらうために作っているわけで、そこを目指してくる人達だけでしたら、どこにあつてもいいのですが、そうではない。ふらっと来た方に、こんな展示があるのだということを気付いていただけるような仕組みというのが絶対に必要だと考えております。例えば表示があつて入口までたどりつけたとしても、そこが何であるかがすぐに分からない。引揚げの文字が向かって右のほうにちょっとだけありまして、順路となる左側を向いたらそこが何であるかということが分からない。そこに明確に引揚げ資料の展示ですよ、というものがあればいぶん今とは印象が違うのではと思いました。

それから、もう少し展示の細かい話になるのですが、1つ1つの展示物について、我々はキャプションと呼んでいる説明板が付いております。いわゆる美術品とかでしたらタイトルがあつて、後はそれを見る方々にお任せすればいいという考え方が成り立ちますが、歴史的な資料の場合はそれがまず何であるかを説明しなければいけない。そして、もう1つ必要なのが、ではなぜその資料がそこにあるのか、それはどういう理由でそこにあるのかで、ここが見る側に伝わらないといけない。例えば「鉛筆」とだけ書かれて置いてあつても、何の興味も持たれない。例えばどういった人がどういった状況で使った鉛筆であるかというように、直接そこに書かずとも、周辺で背景がきちんと説明されていれば、非常にまとまりのある、展示物にも注目が行くものになると思う

のです。そういったところが改善点の1つかなと思います。

それから、先程、私が資料の損傷の話を上申しましたが、レプリカ代わりに写真がたくさん展示されています。この写真の見せ方について、例えば本の表紙を写真に撮ってそれがただ置かれているのと、本自体が厚みを持って立体的に置かれているのでは全くそれを見る人達の印象が異なりますし、どれだけ注目するかも変わってくると思います。今日、皆様と展示を見た際に思ったのは、展示の前を通り過ぎるスピードが速いということです。ここにいらっしゃる方は展示内容をよくご存知だからかもしれませんが、じっくり見るような形の展示ではないということが、今後検討していく1つの課題かなと考えます。

【有馬委員長】

レプリカもこの展示の大きな欠陥の1つだと思います。レプリカにはお金をかけないと物がみずぼらしくなります。そうすると人はちゃんと見ません。中身の伝わり方が違ってきます。細かいところですが、細かいところをちゃんとやるのとやらないのでは展示は全然違ってきます。現在の展示は引揚経験者の方がご覧になって、大事にされていると思う感じからは程遠いと思います。そういうところをちゃんとやっていくというのは今回の展示リニューアルの大事な柱の一つになっていると思います。

【委員】

今言われたように、僕も博物館の歴史資料を2回見た時に、大きな垂れ幕で戦争のことと引揚げのことがいっぺんに目に入ってきました。ああいう大きな垂れ幕をここでも入口から入ってすぐに設置してもらおうとずいぶん印象が違うのではないかと思います。

それから細かいことですが、引揚者のアンケートコーナーが無いです。ふくふくプラザ全体用のアンケートはありますが、引揚資料のコーナーところにも、展示を観られた方のご意見やどのような方が来られたかということをご意見を聞いて欲しい。

もう一つ、僕は以前教員をしていたこともあり、平和教育は今やっておかないといけないという切迫感を持っています。報道等で日本の人口の85%が戦争未経験者になるというのを読んだことがあります。ですから平和をきちんと大事にする世代を育てていくということから、戦争や引揚げの資料を保存して、子どもたち、若い世代に引き継いでほしいと思います。広島、長崎もそうですし、大震災があった東北もそうですが、語り部の年齢が高くなっていなくなっています。世話人会でも語り部を作りたいということで、女子大生が何人か来られていたのですが、就職すると来られなくなりました。教員が語り部になってほしいという思いがあります。戦争を知らなくても、子供たちに平和教育をやっていくことをこれからも継続してほしい。できれば福祉関係の方と教育委員会と連携して、子供たちがここに引率されて来るような展示場を作してほしいです。

もう一つは、引揚げの歴史の書籍のコーナーを作ってもらいたいです。総合図書館とかここふくふくプラザとか、ある棚だけは引揚者の書籍コーナーにして欲しいです。

もう一つは、福岡市の市政だよりでふくふくプラザに常設展があるというお知らせをしてほしいです。

また、僕個人としては、空襲の日があるように、引揚げの日というものを作ってほしいです。他都市は作っています。これはお金が要らないので、その日を中心に、常設展示の紹介を市政だよりに出すということもできるのではないかと考えています。以上です。

【有馬委員長】

ありがとうございました。展示についてはあれだけのスペースで引揚げに関わるストーリーを全て伝えるというのは難しいかもしれませんが、書籍のコーナーを作ることは可能だろうと思います。あそこの場所あのスペースだけで全部使命を果たすというのは難しいと思いますので、色々関連させながらやっていくことが必要だと思います。先程申し上げましたが、スペースが狭く、盛り込める情報が限定されるのであれば、少し大きめなついで状の案内板を作って、そこに情報を盛り込めば、それは実質的に展示スペースを拡張したことになります。そういう色々なことを考えながら、情報を発信していくことは必要かなと思いました。

展示内容とストーリーに関して、先程、朝鮮半島からの引揚げは福岡市の場合の一つのストーリーになっていくというお話がありましたけれども、資料的内容的に言うと、それは可能そうですか。

【委員】

マニアックになりすぎないように調整しなければいけないと思いますが、例えば展示の「第4章」あたりで、表立っては出しづらいかもしれませんが、いわゆる不法妊娠、二日市保養所での墮胎の問題を取り上げるということは可能だと思います。

スペースや予算の問題が制約としてある中で、どうしたらいいのかというところでは、ご意見がいっぱいあった細かいところの改善点、少なくとも展示に向けた導線を確認するとか、小さなことを積み重ねていくしかないと思います。

また、福岡市はこういう取組みをしているという方向性を示すことも必要だと思いますし、そういう時に一つの売りといいますか、ストーリー性を持たせるときに、この朝鮮半島の問題に1つのスペースを割く余地というのはあるかと思います。

展示の「第4章」のところで紹介されている資料は比較的現物も多かったと思いますので、こういうものをうまく利用しながら、あと、引揚げに詳しい方でなければわからないと思いますが、二日市保養所での墮胎の問題も九大の医学部がかなり関与しておりまして、配付資料の表で行くと下から5、6番目の『福岡の学生同盟の写真』という写真のレプリカがあり、展示にもとある寄贈者のお名前がでていましたが、この方もまさしく京城帝国大学医学部在学中で福岡に引き揚げられて来て、九大の医学部に編入された方です。私は一度インタビューに行ったことがあるのですが、現代の福岡との繋がりという見せ方もあるのではないかと考えています。

あるいは、聖福寮とともに聖福病院があったわけですが、それは京城帝大の関係者、九大、満洲医科大、日赤の方達で作ったものであり、今は浜の町病院になっています。そのようにうまく繋げていければ、予備知識がない方にも関心を持っていただけるのではないかと考えています。

【有馬委員長】

そうですね。よく見ると第4章には非常に興味深い資料が揃っていますが、現在の展示だとそのストーリーが見えてこない。例えば「日本人世話会会報」のコピーが展示してありますが、なぜこういうものがあるのかという情報が提示されてない。それこそ、簡単に作ったレプリカなので、紙が真っ白で、コピーしたみたいにしか見えません。委員がおっしゃったように、聖福寮や聖福病院は現代の福岡と色々なところで結びついている。もっと言うと、お寺の境内というのはかつて公共物で、そういうものには敷地を貸すものだという共通認識があった。だから、聖福寺にも引揚寮があったわけです。そういうことも含めて、福岡の地域ならではの資料には非常にポテンシャルがあると思います。そのパワーを全面開花させるにはどうしたらよいかと考えると、かなり伝えるものが多い展示になっていくのではないかと思います。

【委員】

少し難しいので、あくまで検討材料の一つくらいにしかならないと思いますけど、引揚げというのは引き揚げて来るばかりではなくて、博多港から朝鮮半島に帰っていく人というのも結構いらっしゃったわけです。慎重に慎重を重ねていく部分ではありますが、特徴として外に出ていく港としての役割も大きかったという意味で、博多港には近現代だけでなく割と広い話につなげていくポテンシャルがあるのかなと思っております。

【有馬委員長】

ありがとうございました。先程見てきた資料の中に、引揚げの順番を待つ方に向けたビラで、「闇船は危ないから気をつけなさい」と書かれているものがありましたけど、実際には混乱期中で博多港から色々な人が行ったり来たりしていたようです。委員の本の中に出てきますが、泉靖一という文化人類学者、後に東大の教授になった方がいましたが、その人も世話人会の一員として働いていました。彼は一回密航してまた朝鮮半島に戻っています。連絡のために京城まで戻ったりしているわけです。引揚げという歴史の中の出来事にはそういう細かいヒダがあって、全体が一つの引揚げという歴史的な事件を構成しています。だから、そういうところから具体的に伝えていく手法というものを考えていかなければいけないと思いました。

【委員】

能古博物館に引揚げの展示があり、私が10歳の時に担いだ背嚢を展示してもらっています。母の形見だと思っています。

実は漫画家に引揚者がものすごく多いです。漫画家のちばてつやさんの「ひねもすのたり日記」森田拳次さんは漫画「ぼくの満州」を上下巻で出しています。

それから書籍類と報道関係のテレビ等で流されたものをできるだけ色々拾い集めているのですが、ユーチューブでもなかにし礼さんが『私にとっての満州』という投稿をしています。彼は引揚者として壮絶な体験をしておられます。それから五木寛之さんも引揚者で、一人で資料館を作ろうと動いたらしいのですがその時代にはそぐわずだめだったそうです。

福岡の場合は、空襲で市民も大変な思いをしていたこともあって、引揚者が大博通りを昔の国鉄の駅まで歩いたという記録も全く残されていません。自分たちの生活の方が大変だったという

ことがあるからだと思います。

有馬委員長が言われたように、そのヒダの面をぜひとも拾い集めて何とか保存して頂きたい。「引揚港・博多」のホームページも全部見ました。ページの開設は大変だったと思いますが、これから先はそういうものも視野に入れていただければと思います。以上です。

【有馬委員長】

ありがとうございました。ほぼ予定の時間です。今回は今日いただいたご意見を整理して、具体的にどこをどうするのかという話をしたいと思います。具体的にと言っても、今ある展示を少しいじればいいという話では済まないと思いますので、誰がディレクションをするのかということも考えていかなければいけないと思います。それも含めて、今回は方向性を出した議論をお願いしたいと思います。今日のところは以上でよろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

【事務局】

長時間にわたり貴重なご意見ありがとうございました。現状の展示における、館内での案内表示やアンケートの実施などの課題や改善点、館内での案内表示などすぐに対応を検討すべきこと、入替えにあたってのストーリー立てや見せ方の工夫、そもそもの展示にあたっての資料の保存の観点など、多数の貴重なご意見を頂戴しました。次回までに、事務局の方で誰をディレクターにすると良いかということも含めて検討させていただいたうえで、第2回を開催させていただきたいと考えております。なおスケジュールにつきましては、最初に申し上げた通り、第2回目を5月下旬に予定しているところでございます。その際に、事務局から提示させていただいた案について委員各位からご意見を頂戴したいと考えております。具体的な日時、会場につきましては、後日改めてご案内させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それではこれを持ちまして第1回検討委員会を終了いたします。